

名古屋学院大学同窓会会報

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION NEWS

第4号 ('93.10)

名古屋学院大学同窓会事務局発行
愛知県瀬戸市上品野町1350
TEL 0561-42-0999(直通)

第一回外国語学部卒業生を迎える 同窓生総数二〇、五二九名!

一九九二年度卒業証書・学位記授与式が去る三月二五日(月)本学栄光館において挙行され、経済学部経済学科四八四名、同商学科三四九名、外国語学部英米語学科一五一名、同中国語学科五四名、留学生別科四名、合計一、〇四二名が新たに巣立ちました。

多く、これまでにない華やかな卒業式となりました。式の終了後には、それぞれの所属ゼミに分かれ、恩師とともに別れを惜しみました。

大学同窓会は、今回の卒業生を迎えるにあたって、外国語学部長、佐藤白郎先生に特別に寄稿をお願いしました。

特別寄稿

第一回外国語学部卒業生に寄せる

外国語学部長 佐藤白郎

頼りになるのは同窓生



英米語学科一五一名、中国語学科五四名の諸君は外国語学部の第一回の卒業生として本年三月勇躍社会に巣立っていきました。四年前開設されたばかりの学部に入學し、先輩である経済学部の、そしてまた新設の商学部の学生諸君にまじって勉学した日々は、いつまでも諸君の心に貴重な思い出として

残っていくことと思います。この第一回の卒業生が社会においてどう評価されるかが、今後の名古屋学院大学外国語学部の評価を決定することになるという意味で、その活躍が後輩達にとっても重要なものとなってくるわけです。

ところで、大学で勉強したという事は、どういうことなのでしょう。いまさら何を、それぞれの専門科目の勉強したことに決まっているのではないかと、言うかもしれません。そのとおりです。英米語学科の学生諸君が英語の勉強に精を出し、中国語学科の諸君が中国語の勉強に励んだことは当然のことです。でもそれだけでいいか。英語、中国語の力を付けることだけがその目標であるならば、大学では

なくて、語学だけを朝から晩まで教える機関で勉強するほうが、もっと効率があがったのではないのでしょうか。大学は単に知識を詰め込むところではなくて、人格を形成する所でもあるからです。社会において自分の判断で周囲に、社会に責任のある行動ができる人間を作り上げるのが大学であると私は思います。一見専門とは関係がないような科目を学ぶようになってくるの



ることはわかります。しかし、その反面多くの会社が四年制の学生を採用するのも、単なる語学力、聞く、話す、読むという技術的な力ではなく、幅広い視野のもとに物事を大局から判断できる人間の将来の可能性を考えているからだと思っています。本当の意味での語学力は、このような幅広い勉学の裏付けがあつて初めて身につくものだと思います。諸君にとっては、これからが大切です、頑張ってください。私も新しい卒業生を送り出した四月から、カリキュラムを検討しなおしました。真の教育の成果を上げる努力こそ私どもの責任であると考えるからです。

も、クラブ活動が組み込まれているのもこのためです。英米語学科の学生が社会学、哲学などはもとより、自然科学系の勉強もできるようにしているのも、将来の可能性を持った、幅のある人になってもらうためだったので、よく会社、企業は即戦力になる学生が欲しいのだ、と言うことを聞きま

す。どうしても英語を使用する機会が多い会社が英語の得意な学生を欲しが

「敬神愛人」の建学の精神に基づく本学で四年間学んだことを誇りに自信を持ち、胸を張って社会を逞しく生きていくって欲しいと思います。とはいえ、最初の卒業生の歩む道が決して平坦なものではないことは、同じような経験をした私にもよくわかります。多数の卒業生を持つ人達と比べると、普通の努力では世間は認めてくれないのが普通です。認めてもらうためには、この人達の二倍の努力が必要です。苦しい道において頼りになるのは、先輩の経済学部の同窓生達だと思います。彼らに助言を求め、後輩のことを思い、やがて加わる商学部の卒業生とともに、名古屋学院大学の同窓生の固い絆のもと、一歩一歩輝かしい歴史と伝統を築き上げていってください。